

学力向上を図るための全体計画

学校の教育目標	学校経営計画(学力向上に関わる要点)
<p>社会の中で豊かに生きるために、学び、自立しながら周囲と協働する人材を育成することを目指し、次の目標を掲げる。</p> <p>校訓「叡智、健康、自治、共生」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仕事と勉強にうち込み、実行力のある人 ○健康で自主性に富み、規律ある生活を送る人 ○自由と責任を重んじ、見通しをもって行動する人 ○自他を大切にし、建設的に意見を述べる人 	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的にICTを活用することで、「生きる力」を身に付けるための課題発見・問題解決を中心とした「知識・技能を活用する21世紀型授業」を一層推進する。 ●意欲的に学習したり、体力の向上を目指したりする姿勢を醸成する。 ●各教科において各種調査や定期考査等の結果を分析し、授業形態を工夫することで、思考力・判断力・表現力が高まったと実感できる学習指導を行う。

本校における「確かな学力」の定義

本校では学習指導要領に示された基礎・基本の確実な定着を重視するとともに、次の力を育成する。
 「豊かな人間性」「自ら考え、主体的に判断して行動できる力」「国際社会の中で貢献できる人間力」

教育課程における指導の重点			
各教科	特別の教科道徳	生活指導	総合的な学習の時間
<ul style="list-style-type: none"> ○研究の成果を生かし、生徒の主体的な学びや協働的な学びを促進させる。 ○自学自習ノートや、タブレット端末を活用し、学習調整力や粘り強さの育成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○推進教師を中心に年間指導計画を作成し、全教員が道徳の授業に主体的に関わるローテーション道徳を実施する。 ○道徳授業地区公開講座を実施し、地域・保護者・学校の意見交換を基に、望ましい道徳性の育成を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶やTPOに応じた服装、時間の遵守、物を大切にする態度など、良識ある社会人としての基礎・基本を身に付けさせ、自ら考え規律ある行動ができる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自立と共生」を全校テーマとし、体験的な学習や課題を設定した調べ学習・協働学習・発表等を通して、学び方やものの考え方、表現力を身に付けさせる。
キャリア教育	特別活動	国際理解教育	学校2020レガシー
<ul style="list-style-type: none"> ○夢や目標をもち、自己実現に向けて努力し続ける意欲や態度を育てる。 ○キャリア・パスポートを活用し、3年間を見通した指導計画に基づく指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が役割を果たす場や機会を意図的に設け、自己有用感や活動の達成感を味わわせる。 ○活発な生徒会活動と生徒が主役となる行事を実施して生徒の自治の精神を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科・道徳・特別活動などと関連させて国際社会の出来事に関心をもたせる。 ○自他の命や健康を大切にし、国際親善や国際社会の中で貢献しようとする意欲や態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校朝礼の講話などを活用し、スポーツの側面だけではなく、意義や人権との関わりについて知り、考える機会とする。 ○ポッチャ体験学習や障害理解教育、JRC(青少年赤十字)委員会や地域でのボランティア体験を系統的に実施する。

授業改善に向けた視点		
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○年2回生徒による授業評価を行い、授業改善推進プランに反映させる。 ○学力向上支援講師(数学科)を活用し、基礎的・基本的な内容および発展的な内容の充実を図り、個に応じた指導の徹底を図る。 ○問題解決的な学習、探究的な学習、体験学習、グループワークやディスカッションなどの多様な学習形態・方法で生徒の主体的な学びや協働的な学びを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程編成時において、授業時数の確保を厳正に行うとともに、授業時数の管理を徹底する。 ○各教科・道徳・総合的な学習の時間の指導計画に、国際理解教育、オリンピック・パラリンピック教育に関わる内容を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の「21世紀型学力」に関する研究の成果を発揮し、生徒自身がより一層主体的に学びに向かう姿勢の育成を図る研究を進める。 ○夏季休業日を利用し、主任教諭以上が校務に関する講話をもち、教員としての知見を広げ、OJTを推進する。
評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な点検を行い、適正な評価・評定の実施に努める。 ○常に、年間指導計画・評価計画の見直しを心がけ、指導と評価の一体化を図る。 ○評価・評定の方法について、生徒・保護者に分かりやすい説明を複数回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携し、下校時の関町図書館利用を通して家庭学習習慣の形成を図る。 ○放課後や定期考査前に地域未来塾を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着や個に応じた指導の充実を図る。 ○英語や漢字などの検定試験について地域人材を活用して行い、高い目標達成に向けて努力する姿勢とチャレンジ精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作成した課題改善カリキュラムを実施して検証を行い、適宜カリキュラムの改善を図りながら小中一貫教育を推進する。 ○校区の小学校と連携し、地域の共通課題として、いじめや不登校、学力・体力向上に関わる研究活動を進める。

授業改善策の検証方法
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価(年2回) ○学校関係者評価委員会での意見聴取 ○生徒・保護者・地域の方・教員を対象とした「学校経営方針および教育課程、今年度の重点目標に対する評価」